

社会技術研究開発事業
研究開発実施終了報告書

SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム

シナリオ創出フェーズ

「性虐待などの被害児が心身の回復につながる医療機関を
ハブとする CAC(Children's Advocacy Center)モデルの構
築」

研究開発期間 令和 4 年 10 月～令和 6 年 9 月

研究代表者氏名

田上 幸治

神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療セ
ンター 臨床研究所 部長

協働実施者氏名

溝口 史剛

前橋赤十字病院 小児科 副部長

目次

I. 本研究開発実施終了報告書サマリー.....	3
II. 本編	4
1. 研究開発プロジェクトの目標	4
1－1. 研究開発プロジェクト全体の目標	4
1－2. プロジェクトの位置づけ	5
2. 研究開発の実施内容.....	5
2－1. 実施項目およびその全体像	5
2－2. 実施内容.....	13
3. 研究開発成果.....	15
3－1. 目標の達成状況.....	15
3－2. 研究開発成果	16
4. 研究開発の実施体制.....	17
4－1. 研究開発実施体制	17
4－2. 研究開発実施者.....	17
4－3. 研究開発の協力者	20
5. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	20
5－1. シンポジウム等.....	20
5－2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	21
5－3. 論文発表.....	21
5－4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	21
5－5. 新聞報道・投稿、受賞など	22
5－6. 特許出願.....	22
6. その他（任意）	22

I. 本研究開発実施終了報告書サマリー

当プロジェクトの目標、実施項目と内容、成果について 4 つの柱ごとに記載する。

- 系統的全身診察の普及プロジェクト

性虐待を受けた児が診察を受ける必要があるが、本邦では診察に回る割合は 1 割程度である。しかも、適切に行われている症例は少ない。この課題解決のために、性虐待に特化した診察である系統的全身診察についての研修プログラムを新たに作成した。2024 年 1 月 20.21 日に第一回包括的性虐待対応プログラム研修として群馬県前橋市で実施した。研修を振り返るとともに、研修内容の課題解決に向けて、2024 年 5 月 10 日、性虐待の診療で第一人者であるマーティン フィンケル教授を招き、web で勉強会を開催した。プログラムの修正をおこない 9 月 28.29 日に第二回研修を行った。

- CAC モデル事業

欧米では被害児が子どもに優しい環境で聞き取り、診察、心のケアをワンストップで受けられる制度（Children's Advocacy Center: CAC）モデルが標準化している。神奈川県中央児童相談所と神奈川県立こども医療センターが早期に情報を共有し、聞き取り、系統的全身診察の日程調整。早期からの情報共有で、司法面接、系統的全身診察、心のケアをワンストップで対応。小児科医（総合診療医）が長期的なフォローを行う。これにより各機関の業務の軽減につながる、子どもに優しい環境でワンストップ対応できる。2025 年度からこの神奈川版 CAC モデルを実施する。

- MDT 促進プロジェクト

虐待の対応において MDT は、米国で CAC が設立された理由からもわかるように最も重要といってよいが、同時に最も難しい課題である。医療がハブになり虐待の医学的な勉強会を開催し、多機関連携を促していく。この勉強会の資料「乳幼児の頭部外傷（Abusive Head Trauma: AHT）、傷痕の診断、虐待による熱傷、ネグレクトによる衰弱、虐待による骨折など」を作成し、各地域で多機関での勉強会を実施した。

- CAC ネットワーク（Hospital association for CAC: HACAC 連絡協議会）

子ども虐待に積極的に取り組んでいる協力施設と二か月に一度 WEB での情報交換会を行ない、日本子ども虐待防止学会で報告を行った。

Ⅱ．本編

1．研究開発プロジェクトの目標

1－1．研究開発プロジェクト全体の目標

本プロジェクトが取り組む社会課題は、子ども虐待、特に性虐待の被害にあった児への取り組む仕組みを変えることである。児童相談所への虐待相談件数は年々増え、2020 年には 20 万件を超えている。その中で、性虐待は全体の 1.1% となっている。欧米国ではすべての虐待の中で、性虐待の割合は 10% 弱、米国でも 8.5%（2016 年）であり、日本では被虐待児が開示できず放置されたままの状態があると思われる。その原因として、性虐待は歴史的にもっとも見つけにくい虐待であるが、日本では被害を受けた子どもに優しい環境で対応できる仕組みがないことも原因である。後に精神疾患や成人病の罹患率や自殺率も高いこの被害児を早く救わなければならない。

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。**子どもに対する虐待、搾取、及びあらゆる形態の暴力を撲滅する。**あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

● 系統的全身診察の普及プロジェクト

系統的全身診察については、警察/検察や児童相談所の認知も不十分で、対応できる医療機関も限られている。この技法を医療機関に積極的に広めるための枠組みを整備するために、性虐待対応の研修プログラムを新たに作成する。性被害にあった児に系統的全身診察を行う医師がいない地域での人材育成を行う。系統的全身診察の普及グループが研修プログラムを作成し、各地域で研修を行う。

● MDT 促進プロジェクト

虐待対応において、多機関連携（MDT）は欠かせない。しかしながら、医療、司法、児童相談所の役割は異なり、MDT は課題の一つである。これらを解決するためには、お互いの役割を理解し、協力していくことが必要である。医療がハブになり虐待の医学的な勉強会を開催し、多機関連携を促していくことが可能である。研究代表者の田上は、警察/検察、裁判官、児童相談所、子どもの権利擁護弁護士、医療者と『かながわ子ども虐待勉強会』として 2016 年から年 2 回、神奈川県立こども医療センターで開催してきた。MDT 促進事業グループがこの勉強会の資料を編集し、乳幼児の頭部外傷（Abusive Head Trauma: AHT）、虐待による熱傷、傷痕の虐待診断、ネグレクトによる衰弱、虐待による骨折などの勉強会資料を作成する。CAC モデルネットワークグループの各病院が主催者となり、警察/検察、児童相談所、医療者などを集め、子ども虐待についての勉強会を行う。

● CAC モデル事業

性虐待を受けた児の聞き取り、診察、心のケアを子どもに優しい環境でワンストップ対応し、CAC モデルが標準化している。各地域での医療をハブとした CAC モデルとして、子どもに優しい環境で、被害を受けた児が聞き取り、診察、心おケアをワンストップで行い、心

身の回復に向かうことである。

- CAC ネットワーク（Hospital association for CAC: HACAC 連絡協議会）

性暴力救援・性虐待に積極的に取り組んでいる医療機関で情報交換を行いながら、これらの施設での CAC モデル構築について意見交換を行い、情報発信していく。

1-2. プロジェクトの位置づけ

- 系統的全身診察の普及プロジェクト

全国的には性虐待にあった児に特化した診察 - 系統的全身診察が実施できる医師、医療機関はごくわずかである。全国的には性虐待にあった児の診察が行われているのは 1 割程度で、できたとしても不適切な診察が行われている現状である。系統的全身診察を行える医師を養成し、全国どこでも診察が受けられるようにしていく。

- MDT 促進プロジェクト

多機関が集い子どもの虐待についての知識を高め、顔の見える関係を作る取り組みを行っている地域はまだわずかである。このような活動を支援、広げていく取り組みが必要である。

- CAC モデル事業

医療をハブとして CAC モデルを構築するためにプロトタイプとして神奈川県立こども医療センターが診察、心のケア、長期的なフォローをおこなう。

- CAC ネットワーク（Hospital association for CAC: HACAC 連絡協議会）

全国で虐待対応に尽力している医療機関と情報共有をおこなっている。

2. 研究開発の実施内容

2-1. 実施項目およびその全体像

- 系統的全身診察の普及プロジェクト

2023 年秋までに系統的全身診察についての性虐待対応の研修プログラムを新たに作成した。2024 年 1 月 20.21 日に第一回包括的性虐待対応プログラム研修として群馬県前橋市で実施した。医療者、警察、検察、児童相談所職員など約 20 名が参加した。研修を振り返るとともに、研修内容の課題解決に向けて、2024 年 5 月 10 日、性虐待の診療で第一人者であるマーティン フィンケル教授を招き、web で勉強会を開催した。9 月 28.29 日に第二回研修を行った。

- CAC モデル事業

2019 年本邦で二番目に設立された CAC である NPO 子ども支援センターつなぐでの、性虐待被害児の聞き取り、診察、その後のケアについての活動をモデル事業として計画していた。NPO つなぐは様々な企業や財団などからの支援をうけており、また当プロジェクトが目指す医療機関がハブとなる CAC モデルとは異なることから計画を変更した。

欧米では被害児が子どもに優しい環境で聞き取り、診察、心のケアをワンストップで受けられる制度（Children's Advocacy Center: CAC）モデルが標準化している。神奈川県では性虐待の被害児の診察については当院が県児童相談所から診察を委託事業として請け負っている。神奈川県性的虐待調査報告書（第 5 回）（<chrome-extension://efaidnbmninnibpcajpcgkclefindmkaj/https://www.pref.kanagawa.jp/documents/15797/file4.pdf>）にあるように、被害児の 9%しか診察を受けていない状況である。報告書にもあるように、「重篤な事案でなくても系統的全身診察を実施できると良い。診察を通して新たな被害が明らかになったり、言えずに自身の身体を心配している子どもがいるかもしれないからである。また、症状が無くても性感染症の罹患が明らかになる可能性もある。」とのように診察は心身の回復には不可欠なものである。神奈川県は先進的にこの問題に取り組んでいますが、現状では診察の割合が低いこと、診察までの時間がかかることが課題である。このことを改善するためには、早期からの多機関での情報共有が必要である。これにより、被害の開示から聞き取り、診察までの時間の短縮とその後の心のケアを広く、長期的に行える。当院は性虐待の診察を行える医師が多数いることと、児童精神科も併設され、心の診療の係られる総合診療医もいる。性虐待対応の早期からの多機関の情報共有と聞き取り、診察、心のケアのワンストップでの対応はいわば神奈川県 CAC モデルと呼べる仕組みであり、他地域への模範となる。

児童相談所と病院が早期に情報を共有し、聞き取り、診察の日程調整。児童相談所の聞き取り、司法面接、系統的全身診察の情報を捜査、調査、支援、心のケアに利用する。早期からの情報共有で、司法面接、系統的全身診察、心のケアをワンストップで対応。小児科医（総合診療医）が長期的なフォローを行う。

これにより各機関の業務の軽減につながる、子どもに優しい環境でワンストップ対応できる。

また、マネジメントシステムについて、National Child Alliance は CAC の設置基準を定めている（<https://www.nationalchildrensalliance.org/ncas-standards-for-accredited-members/>）。これをもとに本邦での設置基準を作成する。

● MDT 促進プロジェクト

虐待の対応において MDT は、米国で CAC が設立された理由からもわかるように最も重要といってよいが、同時に最も難しい課題である。各機関の役割は異なり、各機関の他の機関のニーズと各機関が提供できる技術シーズは異なる。それ故、お互いが協力しながら子どもの最善の利益のために役割を果たす必要がある。お互いが各機関の可能な役割、不可能な役割を理解する必要があるが、はじめに医療が虐待の医学診断について児童相談所や司法に説明する必要がある。虐待には身体的虐待から心理的虐待まで様々で、重症度も様々であ

る、しかしながら司法が関与するような虐待事例は、重度な身体的虐待や性虐待であることが多い。この場合、医学的診断が虐待診断に重要である。また、医療は子どもの代弁者としての役割はあるが、中立的な立場であるため虐待に係る様々な機関の中でハブ（ネットワークの中心）になりやすい。それ故、医療がハブになり虐待の医学的な勉強会を開催し、多機関連携を促していくことが可能となる。

研究代表者の田上は、警察/検察、裁判官、児童相談所、子どもの権利擁護弁護士、医療者と『かながわ子ども虐待勉強会』として2016年から年二回、神奈川県立こども医療センターで開催してきた。この勉強会の資料を編集し、乳幼児の頭部外傷（Abusive Head Trauma: AHT）、傷痣の診断、虐待による熱傷、ネグレクトによる衰弱、虐待による骨折などの勉強会の資料を作成した。HACAC連絡協議会の医療機関は先進的に虐待対応を行っている施設であるため、各地域のなかで多機関での勉強会の実施している施設も多い。既に勉強会などが実施されている地域に赴きオブザーバー参加した。また、そのような勉強会がない地域では、地域の方々と連携をとりながら多機関での勉強会を実施した。

● CACネットワーク（Hospital association for CAC: HACAC連絡協議会）

子ども虐待に積極的に取り組んでいる協力施設と二か月に一度 WEB での情報交換会を行った。新たに千葉こども病院、函館中央病院、仙台市立病院も参加することとなった。

（３）成果

大項目①：系統的全身診察の普及

中項目①：プログラム作成

系統的全身診察についての性虐待対応の研修プログラムを新たに作成した。2023 年 10 月 14.15 日に講師陣が横浜に集まり、デモ研修した。



プログラムの最終チェックのために、横浜でのデモ研修。

中項目②：研修活動

2024 年 1 月 20.21 日に第一回包括的性虐待対応プログラム研修として群馬県前橋市で実施した。医療者、警察、検察、児童相談所職員など約 20 名が参加した。



研修を振り返るとともに、課題解決に向けて、2024 年 5 月 10 日、性虐待の診療では第一人者であるマーティン フィンケル教授を招き、web で勉強会を開催した。



ZOOM でのマーティン フィンケル講義

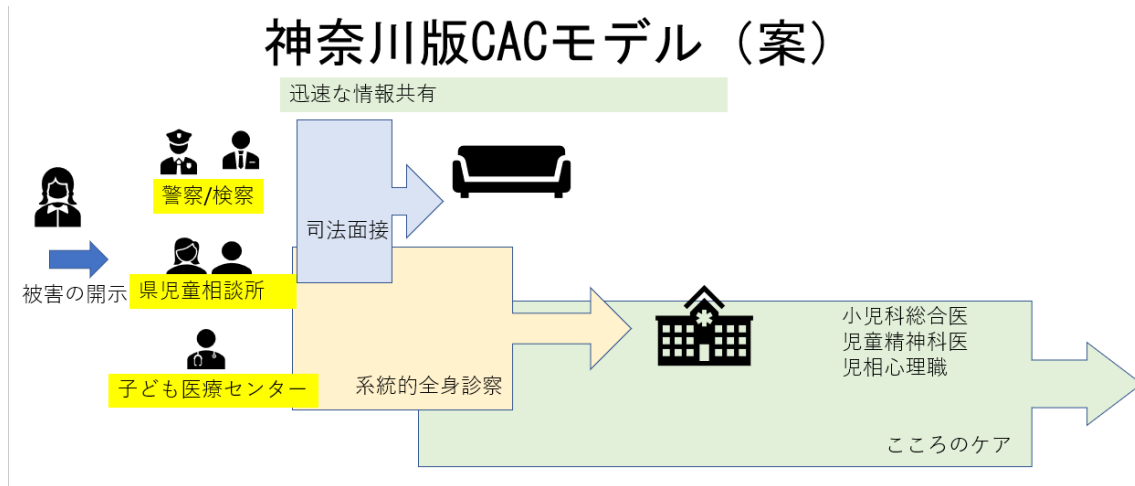
プログラムの微調整を行い、9 月 28.29 日に名古屋で第二回の研修を行った。医師、看護師、児童相談所職員、検察、報道関係者など 25 名が参加した。



大項目②：CAC モデル事業

中項目①：第一次 CAC モデル事業

神奈川版 CAC モデルについては、2024 年 3 月の神奈川県議会において、佐々木正行議員が性虐待被害児の系統的全身診察について質問があった。県こども家庭課長、警察少年育成課長、知事が答弁した。知事は「性的虐待事案について、初期の段階から児童相談所と医療機関が連携し、医療面も含めた子どもを支援する体制づくりを進めます。さらに、将来的には、児童相談所と医療機関が中心となって、警察、保育・教育機関など、多くの関係機関と連携し、性的虐待を受けた子どもを守り、ケアする仕組みについて検討してまいります。」



今後、県こども家庭課、県中央児童相談所と当院が協議し、取り交わし、神奈川版 CAC モデルを実践していく。

中項目②：第二次 CAC モデル事業

この神奈川版 CAC モデルの構築を進めていき、これがプロトタイプとして全国のこども病院を中心とした医療機関でこのシステムを構築する。尼崎総合医療センター、仙台市立病院、茨城子ども病院でも準備を進めている。



マネジメントシステムについて、National Child Alliance は CAC の設置基準を定めている。これをもとに本邦での設置基準を作成している。

日本版 CAC 設置基準

2024 年 1 月 13、14 日に NPO CFJ と共催で National Children's Advocacy Center のスーザン スキナー氏をお呼びし、第 25 回子ども虐待防止シンポジウム「CAC はなぜ、必要なのか？」を開催した。

2024 年 8 月 13 日 Philippine General Hospital - Child Protection Unit 視察

Child Protection Unit (CPU) は被害児の聞き取り、診察、心のケアをワンストップで対応する Children's Advocacy Center の機能を持つ。1997 年、寄付金を元に Philippine General Hospital (PGH) に併設された。

Philippine General Hospital



面接室：隣にはスタッフルームが備えられている



診察室

まず、フィリピンの虐待対応について説明する。病院や地域の中で虐待やネグレクトが見つけられると、住民自治組織である Barangay や警察に通報される。そこから病院や CPU に運ばれた児は MSW や医師が聞き取りを行う。聞き取りの方法としては、Dutch scenario theory に基づいた方法でおこなわれ、面接者は研修でその技能を学ぶ。

診察については虐待の診察の研修を受けた PGH の小児科医が行う。フィリピンには米国のような虐待専門医の資格はないが、診察には 6 週間の研修を受ける必要がある。原則的に診察はすべての性虐待の被害児は受けることとなっている。もちろん児の意見に沿うことなく無理強いして診察はしない為、約 25 人中 3 名くらいの児は診察を受けないとのことである。性感染症などの検査や緊急避妊の処方も行う。

メンタルヘルスについては、心理職がカウンセリ

ングや TF-CBT などの心理療法を行う。心理職は病院が雇う心理職一名と CPU が雇う二名が担当する。

この CPU には年間 1751 名（2023 年）の被虐待児が運ばれ、そのうち 78% が性虐待である。このような CPU が全国に 138 か所あり、さらにルソン島には 10 施設が開所予定である。



CPU の中は子どもに優しい環境が整っている

フィリピンの皆保険制度である Phihealth では被虐待児の診察やメンタルヘルスの保険請求はできない。性感染症の検査は 750 ペソ（2000 円程）がかかり、支払いができない家族には CPU が肩代わりし、寄付などの資金で賄われる。

CPU の運営資金は建物やその光熱費は病院が持ち、事務職、アドボケイト、二名の心理職の賃金は CPU が持つが、サステナビリティのために、今後は病院の予算で賄うことを進めている。こ

のように CPU の予算の一部は寄付によって運営されているが、病院のサービスとして認められ。被害にあった児の心身の回復に向け病院、CPU の職員が尽力しているのがわかる。

大項目③：MDT 促進事業

中項目①：プログラム作成

各地域での MDT での勉強会をじっするにあたり、乳幼児の頭部外傷（Abusive Head Trauma: AHT）、傷痣の診断、虐待による熱傷、ネグレクトによる衰弱、虐待による骨折などの勉強会の資料を作成した。

中項目②：各地域での勉強会の実施

2023/7/27 北九州市立八幡病院の MDT 会議に参加し、聴講した

2023/9/1 千葉県の MDT 会議に参加し、講義を行った。

2023/10/10 第一回愛知、名古屋 MDT 勉強会開催 症例検討と講義を行った。

2024/3/15 京都 MDT 勉強会 京都第一赤十字病院子どもと家族のサポートチーム主催研修会「性虐待の具体的な対応」講義を行った。



千葉での MDT 会議に出席し講義をする様子

大項目④：CAC ネットワーク

中項目①：CAC ネットワーク（Hospital Association of CAC; HACAC 連絡協議会）での情報交換

新たに 3 つの医療機関も加わり、プログラムの作成や情報共有を行っている。

神奈川県立子ども医療センター

前橋赤十字病院

あいち小児保健医療総合センター

沖縄県立中部病院

茨城県立子ども病院

北九州市立八幡病院

国立成育医療研究センター

四国子どもとおとなの医療センター

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
日本フォレンジックヒューマンケアセンター
総合病院国保旭中央病院
兵庫県立尼崎総合医療センター
千葉こども病院(2024 年から)
仙台市立病院(2024 年から)
函館中央病院(2024 年から)



2023/5/18	HACAC 会議	ZOOM	包括的性虐待対応プログラム作成
7/2	HACAC 会議	尼崎	包括的性虐待対応プログラム作成
9/21	HACAC 会議	ZOOM	包括的性虐待対応プログラム作成
2024/1/18	HACAC 会議	ZOOM	第一回包括的性虐待対応プログラム打ち合わせ
3/21	HACAC 会議	ZOOM	第一回包括的性虐待対応プログラム振り返り
5/10	HACAC 会議	ZOOM	マーティンフィンケル勉強会
9/19	HACAC 会議	ZOOM	第二回包括的性虐待対応プログラム打ち合わせ
10/24	HACAC 会議	ZOOM	ソリューションフェーズでの今後の HACAC の方向性について

中項目②：情報発信

- ・第 28 回日本子ども虐待防止学会 学術集会 福岡市 国際会議場 2022/12/11 公募シンポジウム「性虐待の被害児が受ける系統的全身診察はどこで受けられるのか」
「系統的全身診察についてのアンケート」田上幸治（神奈川県立こども医療センター）
「系統的全身診察 8 年間のまとめ」森里美（神奈川県立こども医療センター）
- ・第 29 回日本子ども虐待防止学会学術集会 大津市 2023/11/26 公募シンポジウム「子どものためのワンストップセンターの実践と展望」系統的全身診察について 田上幸治（神奈川県立こども医療センター）

研究期間中のスケジュール

研究開発項目	初年度 (2022 年 10 月 ～2023 年 3 月)	2 年度 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)	最終年度 (2024 年 4 月 ～2024 年 9 月)	以降 研究開発期間終了後の展開
系統的全身診察の普及 プログラム作成 診察グループ 研修活動 診察グループ				有料で継続
CAC モデル事業 一次モデル事業 CAC グループ 二次モデル事業 CAC グループ				他の地域で継続
MDT 促進事業 プログラム作成 MDT グループ 地域での MDT MDT グループ				他の地域で継続
CAC ネットワーク HACAC 連絡協議会 HACAC グループ	学会発表	学会発表		啓発活動や施設 基準の確立

2-2. 実施内容

実施項目 大項目①：系統的全身診察の普及

中項目①：プログラム作成

(1)実施した内容・方法・研究実施者や協力者の活動：成果に記載

(2)結果：成果に記載

(3)特記事項：プログラムの作成において、医師の間で方法の違いが浮き彫りになった。この相違を埋めるために、性虐待の診療について、世界的に第一人者である、マーティンフィンケル氏を招聘し、講演を行った。その後、プログラムを修正し、第二回包括的性虐待対応プログラムを実施した。

中項目②：研修活動

- (1) 実施した内容・方法・研究実施者や協力者の活動：成果に記載
- (2) 結果：成果に記載
- (3) 特記事項：プログラムの実施は、2025 年に神奈川県、尼崎市、仙台市、茨城県で行う。地域の情勢に合わせてプログラムを調整することが必要となるかもしれない。

実施項目大項目②：CAC モデル事業

中項目①：第一次 CAC モデル事業

- (1) 実施した内容・方法・研究実施者や協力者の活動：成果に記載
- (2) 結果：成果に記載
- (3) 特記事項：児童相談所と病院が早期に情報を共有し、聞き取り、診察の日程調整。児童相談所の聞き取り、司法面接、系統的全身診察の情報を捜査、調査、支援、心のケアに利用する。早期からの情報共有で、司法面接、系統的全身診察、心のケアをワンストップで対応。小児科医（総合診療医）が長期的なフォローを行う。
これにより各機関の業務の軽減につながる、子どもに優しい環境でワンストップ対応できる。

中項目②：第二次 CAC モデル事業

- (1) 実施した内容・方法・研究実施者や協力者の活動：成果に記載
- (2) 結果：成果に記載
- (3) 特記事項：上記のようなプロジェクトを尼崎総合医療センター、仙台市立病院、茨城県立子ども病院でも展開していく。各機関が三年後のゴールを設定し、そのプロセスを計画していく。

実施項目大項目③：MDT 促進事業

中項目①：プログラム作成

- (1) 実施した内容・方法・研究実施者や協力者の活動：成果に記載
- (2) 結果：成果に記載
- (3) 特記事項：上記プログラムに加え、性虐待の勉強会資料も作成、もっとも対応が欧米におくれている性虐待について、社会規範や子どもが守られる権利について啓発していく。

中項目②：各地域での勉強会の実施

- (1) 実施した内容・方法・研究実施者や協力者の活動：成果に記載
- (2) 結果：成果に記載
- (3) 特記事項：HACAC の医療機関にはこのような MDT の勉強会をすでに行っている地域も多い。一方、勉強会の開催を打診していくなかで、「警察/検察が協力的でない」「ハブとなるべき医療機関がない」「性虐待など全く手つかず」などと開催を拒まれることもあった。地域の中でハブとなる医療機関や医師を育てるとともに、社会規範を啓発していく必要も感じる。

実施項目大項目④：CAC ネットワーク

中項目①：CAC ネットワーク（Hospital Association of CAC; HACAC 連絡協議会）での
情報交換

- (1)実施した内容・方法・研究実施者や協力者の活動：成果に記載
- (2)結果：成果に記載
- (3)特記事項：定期的に情報共有をおこなってきたが、包括的性虐待対応プログラムの打ち合わせや振り返りがメインとなっていた。地域での多機関連携の重要性から、各地域での多機関による勉強会の実施状況や3年後のビジョンなど明確化していく必要がある。

中項目②：情報発信

- (1)実施した内容・方法・研究実施者や協力者の活動：成果に記載
- (2)結果：成果に記載
- (3)特記事項：ソリューションフェイズ期間の3年間で HACAC 医療機関の地域で包括的性虐待対応プログラムの実施により、多機関連携の醸成や性虐待の受け皿としての医療機関の整備、性虐待の理想的な対応について、HACAC 医療機関の中で社会規範の醸成していく。また、同時に全国で性虐待について勉強会を行っていく。

3. 研究開発成果

3-1. 目標の達成状況

実施項目 大項目①：系統的全身診察の普及

KPI は研修プログラムの作成および年数回程度の研修を行うこととする。

⇒実施できた。

実施項目大項目②：CAC モデル事業

KPI はプロトタイプとしての神奈川県立こども医療センターでの CAC モデルの実施。

⇒まだ実施できていないが、県中央児童相談所、神奈川県立こども医療センター、県こども家庭課と協議をして体制を整備している。本件は2024年4月の県議会でもとりあげられ知事からも支持されている。また、このような仕組みを尼崎総合医療センター、仙台市立病院、茨城こども病院でも実施していく。

実施項目大項目③：MDT 促進事業

KPI は勉強会資料の作成および年数回程度の勉強会を行うこととする。

⇒実施できた。

実施項目大項目④：CAC ネットワーク

KPI は年6回のwebでの情報交換会の開催と日本子ども虐待防止学会での公募シンポジウムの開催である

⇒実施できた。

3-2. 研究開発成果

実施項目 大項目①：系統的全身診察の普及

- (1)内容：性虐待の特化した診察である系統的全身診察は、CFJ 山田不二子医師が以前から行っている。包括的性虐待対応プログラムの作成にも山田医師はアドバイザーとして、講師として参加している。さて、研修を受けた医師が増えているが、実際に診察をする医師や医療機関は増えていない。このことの課題解決には、診察の必要性を医師や看護師、ワーカーのみならず、診察を依頼する児童相談所職員や警察/検察が、被害にあった児の心身の回復には聞き取り、診察、心のケアのすべてがパーツとしてすべてが必要であることや1割ほどしか診察の回ってこない現状を改善させる社会規範やその受け皿の構築にかかっている。
- (2)活用・展開：このプログラムを作成していく過程のなかで、そのことを認識し、医療者だけでなく、医療機関のワーカーや児相相談所ワーカー、警察/検察などが学ぶことも必要と考え、研修には様々な職種の子どもに係る人が参加することを認めている。
- (3)その他について：系統的全身診察の技法自体は変化しないが、性虐待の診察を纏わる状況は地域によって様々であるため、地域によってある程度はプログラムをその地域にあわせたものにする必要がある。

実施項目大項目②：CAC モデル事業

- (1)内容：モデル事業として神奈川県では、神奈川県中央児童相談所と神奈川県立こども医療センターがモデル事業を具体化していている。
- (2)活用・展開：この事業の成果をあげながら、他の地域でも実践していく。尼崎市、仙台市、茨城県でも展開していく。
- (3)その他について：ガイドラインの作成と費用面での制度確立にむけ、ロビーイングをしていく。

実施項目大項目③：MDT 促進事業

- (1)内容：HACAC 医療機関やその地域での MDT の勉強会に参加、名古屋、京都での MDT での勉強会の実施を行った。
- (2)活用・展開：他の地域でもこのような勉強会の実施をすすめたいが、MDT が醸成されていない地域では難しいこともあった。地域の中でハブとなる医療機関や医師を育てる必要がある。HACAC の医療機関の地域での MDT の醸成をまずは優先されるかもしれない。
- (3)その他について

実施項目大項目④：CAC ネットワーク

- (1)内容：二か月に一度、WEB で会議を行ってきた。包括的性虐待対応プログラムの打ち合わせや振り返りの場になっていることが多かった。

(2)活用・展開：今後は各地域の MDT の状況について報告や将来的な展開についての情報共有の場としてしていく

(3)その他について

4. 研究開発の実施体制

4-1. 研究開発実施体制

系統的全身診察の普及グループ

① 溝口史剛（前橋赤十字病院小児科）

② 実施項目

性虐待対応の研修プログラムを作成する。この研修事業を全国で行う。講師などの係わる人材育成を行う。

CAC モデル事業グループ

① 田上幸治（神奈川県立こども医療センター）

② 実施項目

県中央児童相談所と病院が早期に情報を共有し、聞き取り、診察の日程調整。児童相談所の聞き取り、司法面接、系統的全身診察の情報を捜査、調査、支援、心のケアに利用する。早期からの情報共有で、司法面接、系統的全身診察、心のケアをワンストップで対応。小児科医（総合診療医）が長期的なフォローを行い、必要であれば児童精神科、精神科に相談する。

MDT 促進事業グループ

① 田上幸治（神奈川県立こども医療センター）

② 実施項目

児童相談所や警察/検察と医療機関での子ども虐待の勉強会がない地域で勉強会を開催していき、各地域の中で MDT を醸成させていく。

CAC ネットワークグループ

① 田上幸治（神奈川県立こども医療センター）

② 実施項目

医療機関に併設された CAC もしくは CAC を目指す活動を行っている組織を中心に CAC ネットワーク（HACAC 連絡協議会）を設立した。HACAC 連絡協議会として、二か月毎に ZOOM で会議を行い、さまざまな地域での CAC モデルの構築を目指す。

4-2. 研究開発実施者

系統的全身診察の普及グループ（リーダー氏名：溝口史剛）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)

溝口 史剛	ミゾグチフ ミタケ	前橋赤十字病院	小児科	副部長
毎原 敏郎	マイハラト シロウ	兵庫県立尼崎総合 医療センター	部長	代表理事
栗原 八千代	クリハラヤ チヨ	聖マリアンナ医科 大学横浜市西部病 院	医長	調査員
森 里美	モリサトミ	神奈川県立こども 医療センター	総合診療科	医長
川口 真澄	カワグチマ スミ	沖縄県立中部病院	小児科	医長
本山 景一	モトヤマケ イイチ	茨城県立こども病 院	小児科	医長
神蘭 淳司	カミゾノジ ュンジ	聖ルチア病院	精神科	医長
田上 幸治	タノウエコ ウジ	神奈川県立こども 医療センター	臨床研究室	部長

CAC モデル事業グループ（リーダー氏名：田上 幸治）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
田上 幸治	タノウエコ ウジ	神奈川県立こども 医療センター	臨床研究室	部長
森 里美	モリサトミ	神奈川県立こども 医療センター	総合診療科	医長
林 辰司	リントツジ	神奈川県立こども 医療センター	総合診療科	医長
田中 真理奈	タナカマリ ナ	神奈川県立こども 医療センター	総合診療科	レジデント
滝崎 奈穂	タキザキナ ホ	神奈川県立こども 医療センター	総合診療科	レジデント

MDT 促進事業グループ（リーダー氏名：田上 幸治）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)

田上 幸治	タノウエコ ウジ	神奈川県立こども 医療センター	臨床研究室	部長
神蘭 淳司	カミゾノジ ュンジ	聖ルチア病院	精神科	医長
木下 あゆみ	キノシタア ユミ	四国こどもとおと なの医療センター	小児科	医長
植松 悟子	ウエマツサ トコ	国立成育医療研究 センター	総合診療科	医長
栗原 八千代	クリハラヤ チヨ	聖マリアンナ医科 大学横浜市西部病 院	小児科	医長
毎原 敏郎	マイハラト シロウ	兵庫県立尼崎総合 医療センター	小児科	部長
仙田 昌義	センダマサ ヨシ	総合病院国保旭中 央病院	小児科	医長
川口 真澄	カワグチマ スミ	沖縄県立中部病院	小児科	医長
本山 景一	モトヤマケ イイチ	茨城県立こども病 院	小児科	医長

CAC ネットワークグループ（リーダー氏名：田上 幸治）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
田上 幸治	タノウエコ ウジ	神奈川県立こども 医療センター	臨床研究室	部長
毎原 敏郎	マイハラト シロウ	兵庫県立尼崎総合 医療センター	小児科	部長
神蘭 淳司	カミゾノジ ュンジ	北九州市立八幡病 院	部長	代表理事
木下 あゆみ	キノシタア ユミ	四国こどもとおと なの医療センター	小児科	医長
栗原 八千代	クリハラヤ チヨ	聖マリアンナ医科 大学横浜市西部病 院	小児科	医長
仙田 昌義	センダマサ ヨシ	総合病院国保旭中 央病院	小児科	医長

川口 真澄	カワグチマ スミ	沖縄県立中部病院	小児科	医長
本山 景一	モトヤマケ イイチ	茨城県立こども病 院	小児科	医長
加藤 美穂子	カトウミホ コ	あいち小児保健医 療総合センター	脳外科	医長
片岡 笑美子	カタオカエ ミコ	日本フォレンジッ クヒューマンケア センター		会長
石倉 亜矢子	イシクラア ヤコ	函館中央病院	小児科	医長
守谷 充司	モリヤミツ ジ	仙台市立病院	小児科	医長
森吉 研輔	モリヨシケ ンスケ	八幡病院	小児科	医長

4－3．研究開発の協力者

氏 名	フリガナ	所 属	役職（身分）	協力内容
山田 不二子	ヤマダフジ コ	CFJ	代表	プログラム作成助言
三浦 耕子	ミウラコウ コ	沖縄中部病院産婦人 科	部長	プログラム作成助言
田中 恭子	タナカキョ ウコ	成育医療研究センタ ー	部長	プログラム作成助言

5．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

5－1．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

5－1－1．プロジェクトで主催したイベント（シンポジウム・ワークショップなど）

年月日	名 称	場 所	概要・反響など	参加人数
2024 年 1 月 13. 14 日	第 25 回子ども虐待 防止シンポジウム	横浜	National Children's Advocacy Center のス	50 名

			ーザン スキナー氏を お呼びし、「CAC はな ぜ、必要なのか？」を テーマ	
--	--	--	---	--

5-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

5-2-1. 書籍、フリーペーパー、DVD など論文以外に発行したもの

田上幸治.性虐待を受けた子どもへのワンストップなケアを.世界 2024.4月号.214-220.

5-2-2. ウェブメディアの開設・運営

5-2-3. 学会以外のシンポジウムなどでの招へい講演 など

- ・警察庁 児童虐待事件に関する全国捜査担当者研修 東京都 2023/6/22 「AHT について」発表者 田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）
- ・最高検察庁 東京都 2023/9/19 「AHT の司法的な事柄について」発表者 田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）
- ・東京都特別区 児童虐待研修 2023/6/22-23 「性虐待について」発表者 田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）
- ・性犯罪被害者の対応についての研修 横浜市 2024/2/15 「子どもの性虐待の現状と課題」田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）
- ・神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター 2024/2/17 「子どもの虐待対応」発表者 田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）
- ・東京都特別区職員研修 東京都 2024/7/2 『性的虐待の理解と対応』
- ・Dr's Prime WEB 2024/5/20 「性虐待の理想的な対応について」
- ・性暴力被害者支援のための学習会 神奈川県産婦人科医会 横浜市 2024/7/11 「こどもの性虐待・性被害の理想的な対応 ～transform hurt to hope～」

5-3. 論文発表

5-3-1. 査読付き（ 0 件）

5-3-2. 査読なし（ 0 件）

5-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

5-4-1. 招待講演（国内会議 1 件、国際会議 0 件）

- ・第 65 回日本小児神経学会学術集会 岡山市 2023/5/25 シンポジウム 7『乳幼児重症

頭部外傷後遺症に対する小児神経科医の役割』乳幼児重症頭部外傷後遺症の慢性期経過
田上幸治（神奈川県立こども医療センター総合診療科）

5-4-2. 口頭発表（国内会議 4 件、国際会議 0 件）

・第 28 回日本子ども虐待防止学会 学術集会 福岡市 国際会議場 2022/12/11 公募シンポジウム「性虐待の被害児が受ける系統的全身診察はどこで受けられるのか」

「系統的全身診察についてのアンケート」田上幸治（神奈川県立こども医療センター）

「系統的全身診察 8 年間のまとめ」森里美（神奈川県立こども医療センター）

・第 29 回日本子ども虐待防止学会学術集会 大津市 2023/11/26 公募シンポジウム「子どものためのワンストップセンターの実践と展望」系統的全身診察について 田上幸治（神奈川県立こども医療センター）

・第 70 回日本小児保健学会学術集会 東京都 2023/6/16 シンポジウム 1「子どもの性被害・性虐待に立ち向かう」

・第 66 回日本小児神経学会学術集会 2024/6/1 口頭発表『当センターでの虐待による乳幼児の頭部外傷例の長期予後と受傷機転の説明』田上幸治（神奈川県立こども医療センター総合診療科）

5-4-3. ポスター発表（国内会議 1 件、国際会議 0 件）

・第 128 回日本小児科学会 福岡市 2024/4/21 ポスター発表『思春期で脳腫瘍を発症した、乳幼児頭部外傷で複数回頭部 CT を撮影した一例』藤本淳志 田上幸治（神奈川県立こども医療センター総合診療科）

5-5. 新聞報道・投稿、受賞など

・田上幸治.官民で性虐待の対応強化を.毎日新聞.2023.12.21.11 面.

5-5-1. 新聞報道・投稿

5-5-2. 受賞

5-5-3. その他

5-6. 特許出願

5-6-1. 国内出願（ 0 件）

5-6-2. 海外出願（ 0 件）

6. その他（任意）

なし

以上